

科目名	家庭基礎	単位数	2	学年	2	コース	全	必選別	必修
教科書	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)			副教材等	生活ハンドブック他				

1 学習の到達目標

1. 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。
2. 学習した知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。
3. 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	家族・社会との共生・ 第1章 自分らしい人生 をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯発達の視点 ・青年期の課題 ・目標を持って生きる ・人生をつくる ・職業生活を設計する 	<ul style="list-style-type: none"> ・各ライフステージの特徴と課題を理解する ・生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つめ分析し、キャリアの視点から生涯の生活設計に必要な要素をまとめ、自分の目指すライフスタイルを考え、高校卒業後の生活設計を立てて職業選択も見通した進路計画を考える 	プリント提出 レポート提出
5	生活の自立 第6章 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・布を用いた生活の知恵 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の縫いを自分で出来るように、ボタン付け・まつり縫いなどの手縫いの基礎・アイロンがけの基礎を身につけ、調理実習で使う 	プリント提出 レポート提出 実習への取り組み状況 作品提出
6	第8章 経済生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の消費生活 ・消費者の権利と責任 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約や消費者信用、多重債務などを学び消費者として適切な判断ができるようにする。 	プリント提出 レポート提出
6	第2章 子どもと共に育つ	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭 ・これからの家庭生活と社会 ・子どもの育つ力を知る ・これからの保育環境 ・私たちの生活と福祉 	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠・出産の過程や欠かせない周囲の協力について、固定的な性別役割分業意識を見直し、男女が相互に協力して家庭を築き、家族関係をつくる必要性を学ぶ ・子どもの育つ力と発達段階を知る ・人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを学ぶ ・遊び、基本的な生活習慣の形成、食事、健康管理について学ぶ ・子どもを取りまく社会変化の現状について理解し、考える ・児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ ・家族・家庭に関する基礎的な法律を学習し、現在の動きを知る 	プリント提出 レポート提出
7	第6章 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・布を用いた生活の知恵 ・被服を管理する 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の縫いを自分でできるように、ミシンがけの基礎を身につけ、調理実習で使用する。 ・被服材料の特徴を理解し、取り扱い表示等を理解し、適切な選択や被服整理能力を身につける 	レポート提出 実習への取り組み 作品提出 実技テスト
8	第3章 高齢社会を生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の考え方 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の現状と課題を理解する。 ・高齢期の心身の変化や特徴を理解する 	プリント提出 レポート提出
		期末考査		期末考査
	ホームプロジェクト	夏休みの課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中の問題点を探し問題解決に向けて計画を立て、実践し、反省・評価をし、家族に発信・共有しながら、次の課題に発展させる 	レポート提出

9	第2章 子どもと共に育つ	子どもとの触れ合いから学ぶ 地域との交流： 子育てサロン	子育てサロンで子どもとの触れ合いを通して、愛着の形成と親としての成長を理解する。また親になることについて考える。 ・地域の民生委員等の福祉関係者の話を聞き、子育ては社会全体で見守られ支援があることを知る	レポート提出 実習への取り組み状況
10	第7章 住生活をつくる	・住生活について考える ・住生活の計画と選択	・住居の機能や間取りについて知る。 ・住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解し、持続可能な生活とは何か考える	プリント提出 レポート提出
11	第5章 食生活をつくる	・食品の安全と衛生 ・手洗い実習 ・調理の基礎 ・調理実習1	・食品の選択や保存方法を学ぶ。食中毒や食品添加物に関する知識を学ぶ 基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる ・沖縄料理の実習を通して、沖縄の食文化を理解する ・食生活を振り返り、食生活の変化や課題について理解する	プリント提出 レポート提出 実習への取り組み状況
12		・食生活の課題 ・食事と栄養	・日本人の食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を知り、自分や家族に当てはめる	
		期末考査		期末考査
		冬休みの課題 ・生活文化	・お雑煮の特徴や地域の食文化の特徴などを聞き、自分が覚えて次の世代に伝承出来るようにする。	レポート提出
1	第5章 食生活をつくる	・食事と栄養・食品 ・生涯の健康を見通した食事計画 ・食生活の安全と衛生	・日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する ・食事摂取量や食品群別摂取量の目安を知り、自分や家族に当てはめる ・食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ ・青年期の食事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を知る	プリント提出 レポート提出 実習への取り組み状況 実習レポート提出
2		・調理の基礎 調理実習2	・基本的な調理技術を学び 日常食を作れるようになる	
3		・これからの食生活 期末考査	・生涯を通じて健康で安全な食生活を営めるようになる	期末考査

3 評価の観点

関心・意欲・態度	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。
思考・判断・表現	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。
技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などを充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。
知識・理解	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などを充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

4 評価の方法

関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解の4観点から総合的に評価する

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

- ・必要な教材を持って、遅刻しないように移動してください。
- ・ペーパーテストだけの評価ではありません。授業態度や プリント、レポート、ファイル、作品、実習への参加・実習への取り組み状況などで総合的に評価します。
- ・作品は、必ず最後まで自身の力で完成させます。
- ・実習では、私語を無くし授業時間を大切に作業に取り組み、提出物は期限内に提出できるように心がけて下さい。
- ・提出物が提出されないと評価ができず未修得となってしまいます。
- ・調理実習では、食中毒予防の観点から、エプロン・マスク・キャップを着用し、爪や髪の毛などの身だしなみに注意しましょう。
- ・食物アレルギーがある場合は、必ず申し出てアレルギーの食品は摂らないように注意してください。
- ・公欠などで予め授業に出られないことが分かっている場合は、プリントなどを先にもらい提出しましょう。
- ・公欠・出席停止などで調理実習に参加できない場合は、自宅で実習し提出したレポートで評価します。補習が設定された場合は、必ず参加してください。
- ・外部講師による授業を予定しています。一昨年までは、子育てサロンにおいて、「子育てなどにおける福祉の支援」を実施しました。
- ・実習では、指定された用具を使用し、使用後は元の状態に自己の責任で戻してください。
- *感染予防の観点からも、各用具の使用者を限定するため、他人の用具、他班の用具の使用はしないでください。

